

## 第2学年D組 社会科（地理的分野）学習指導案

第5時限 2年D組教室

（男子18名、女子15名 計33名）

指導者 福井啓介

### 1 単元 地域調査の手法 ～巨大地震を想定した防災マップ作り～

#### 2 単元の目標

- (1) 巨大地震を想定した防災マップ作りを通して、地域調査の手法として、観察や野外調査、他者への聞き取り、地形図の読み取り方などの基本的技能を身に付けることができる。（知識及び技能）
- (2) 防災マップを作成するための調査方法を考察したり、調査した情報の中から必要な情報を取捨選択したりしながら、適切な情報を防災マップ上に表すことができる。（思考力・判断力・表現力等）
- (3) 田原中学校区について調査し、仲間と協力しながら、自分達の力で防災マップ作りに積極的に取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

#### 3 単元について

本学級の生徒は、都道府県の学習で県の位置や県庁所在地名を正しく覚えるために繰り返し学習するなど、粘り強く課題に向き合うことができた。また、既習事項を確認する問いや、「誰、何、いつ、どこ」という簡単な問いには積極的に挙手をし、発言することができる。その一方で、「どのように」「なぜ」といった思考や判断を促すような問いには途端に口をつぐんでしまう姿が見られる。その原因として「社会科はただ知識を覚える教科」という意識が生徒の中に根強いことや、能動的に授業に参加したり、主体的に学んだりする経験が乏しい点にあると考える。

そこで、自分の生活との関わりを感じやすく、切実感をもちやすい単元を構想することで、生徒は主体的に学習に取り組み、課題を追究する力が身に付くと考えた。また、生徒は校区の観察や調査をして、その結果をまとめる経験が乏しい。社会科の地理的分野における学習では、地図を見ながらその地域の観察に出かけたり、調査をしたりする学習は不可欠である。日本の様々な地域の地域的特色を学ぶ上で、地形図や主題図を読み取ったり、調査結果をまとめたりする活動を通して、地域調査の手法を身に付けさせることが、今後の学習のために必要だと考えた。これらの生徒の実態や、社会科で育てたい資質・能力をふまえ、本単元では巨大地震を想定した防災マップ作りを取り上げる。愛知県は、今後30年の間に70%の確率で起こる南海トラフ地震の大きな被害が想定されている地域である。田原中学校は、渥美半島の東部に位置し、校区の一部は海に面しているため、津波の影響も心配されている。生徒は高い確率で将来、大地震が起こることをすでに知っているため、防災マップ作りに対して切実感や危機感をもって取り組めるだろうと考える。また、校区には埋め立て地や河川など、地震が起こった際に注意すべき土地があるため、調査の視点を見つけやすく、調査に不慣れな生徒もわかりやすく活動ができる。さらに、田原市が出している南海トラフ地震を想定した「推定震度予想分布図」や「推定津波浸水予想図」など、地域を調査するために必要な主題図を数多く資料として生徒に提示することで、読み取りの技能を高める機会が豊富にあることも、この課題の魅力ある点であると考えた。

本単元では、防災マップ作りを通して、地域調査の手法を身に付けることが主目的である。地域調査の手法とは、地域の方に聞き取りをしたり、地図や資料を基にして地域の特性を調べたり、フィールドワークを通して観察した結果をまとめたりする技能（スキル）のことである。指導にあたって以下の3点を手立てとして考えた。1つ目は地域調査の手法を学んでいることを生徒に意識させるために、毎時間の身に付けさせたい地域調査の技能（スキル）を明確に位置づけること。2つ目は防災マップ作りの視点やフィールドワークの方法を学ぶためにゲストティーチャーを活用すること。3つ目は生徒の主体的な学習を促すために、授業展開と教師の役割を工夫することである。

単元構想図（全7時間）

〈生徒の実態〉

- ・地形図や主題図から課題解決に必要な情報を読み取ったり、まとめたりする経験に乏しい。
- ・地域を調べるためにはどのような技能が必要かということを知らず、主体的に地域のことについて調べようとする姿勢がない。

課題把握

○地震が来たらどうなるのだろう。①  
映像資料と主題図を見てみよう。

- ・大地震が30年後までに来る確率が70%だなんて怖い。
- ・推定震度分布図を見ると、田原中学校区は震度6～7が来るみたいだ。
- ・汐川の周囲は液状化の危険性があるみたい。
- ・家の周囲を確認したいけど、田原市の防災マップでは細かいことまで分からない。



田原中防災マップを作ろう

○調査をしよう。②③④⑤（本時）⑥

【計画】②

- ・テーマ「防災マップを作るためのキーポイントはどこだ」
- ・防災マップの視点  
(ア) 標高、土地利用等の基本情報  
(イ) 危険になりそうな箇所  
(ウ) 安全な避難に有効な情報  
(エ) 避難所

【調査①】③④

- ・田原中周辺をフィールドワークする。
- ・標高、幅員、土地条件、土地利用、コンビニの分布等。

【地域調査の手法との関わり】

- ・地震に関する主題図を見て自宅周辺や田原中学校区の被害予想を読み取る。①
- ・田原市防災マップに着目させ、避難経路や危険箇所を確認するためには、縮尺が小さすぎることに気付く。①

◆支援 ◎評価

- ◆生徒に地域調査に対して切実感をもたせるために、地震に対する防災を視点として与える。
- ◆地震に対して自分事としてとらえやすくするために映像資料と主題図を示す。
- ◎地震から身を守るためにどうしたらよいか切実感をもって考えることができる。（ワークシート）

課題追究

【まとめ①】⑤（本時）

- ・田原中周辺のキーポイントが分かった。
- ・友達の間図を見て、視点が抜けていることに気付いたから、次のフィールドワークではすべての視点に気をつけて調査しよう。
- ・どうやって有効な情報を地図上に整理するのか分かった。



- ・ゲストティーチャーの話から、防災マップの視点として標高、土地利用、土地条件等があることを知る。②

- ・フィールドワーク中に「キーポイント」は「身を守るためにおさえておくべき場所」であるという意識を共有させる。

- ・調査後は地形図に書き込んだ情報を元にグループで話し合い、必要な情報を取捨選択しながら、キーポイントが分かりやすい地図を作成する。⑤

- ◆生徒が主体的に地域調査を行えるようにするために、調査テーマや調べてくる「キーポイント」を計画する時間を設定する。
- ◆生徒が多面的・多角的な視点で調査を行えるようにするために、「キーポイント」は「身を守るためにおさえておくべき場所」であるという意識を共有させる。

- ◎調査をするためには、防災マップの視点をもつことが必要だということが理解できる。（ワークシート）

- ◆よりよい防災マップを作るために調査結果を地図にまとめる作業を行う。

- ◎フィールドワークで調べてきた内容を、防災マップの視点を意識して地図にまとめることができる。（地図、ワークシート）

- ◆目的に応じた地図を作ることの重要さに気付かせるために、田原中学校区の防災マップと田原市の防災マップを比較させる。

- ◎地域調査の手法を理解し、使用することができる。（ワークシート）

課題解決

【調査②】

- ・家周辺をフィールドワークする。
- ・標高、幅員、土地条件、土地利用、コンビニの分布等。

【まとめ②】⑥

- ・前回の地図作りで学んだ視点を生かして地図作りができた。
- ・地区ごとに地形の違いなど様々な特徴があることが分かりました。

○田原中防災マップを作ろう。⑦

- ・目的に応じて地図を作ることが大切だということが分かった。
- ・情報を整理して地図を作ることができるようになった。
- ・地域のことを調べるためには、フィールドワークをすることや地域の方に聞くこと、地図にまとめることが大切だね。



- ・自宅周辺のフィールドワークを行い、調査結果を持ち寄って田原中学校区の防災マップを作成する。⑥

- ・防災マップ作りを通して、どのような地域調査の手法が身についたのかを振り返る時間を設ける。⑦

振り返り

〈目指す生徒像〉

- ・地形図や主題図を読み取り、課題解決に必要な情報を読み取ったり、まとめたりすることができる生徒。
- ・地域調査の手法を知り、適切に活用しながら地域のことについて主体的に学ぼうとする生徒。

4 本時の指導

(1) 目標

- ・地図への情報の書き込み方や「防災マップの視点」を意識した地図作りの方法を、積極的に聞いたり、教えたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
- ・フィールドワークで集めてきた情報を、標高や危険箇所、身を守るために必要な場所、避難所など「防災マップの視点」を意識して地図上にまとめることができる。 (知識及び技能)

(2) 準備

教師：生徒用地図の拡大図、生徒用地図（地理院地図）、色ペンセット

「防災マップの視点」カード、写真資料、活動の手順カード

生徒：フィールドワーク調査資料、ノート、のり、はさみ

(3) 展開

学 習 活 動	◆教師の支援	◎評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①「防災マップの視点」を意識して、分かりやすい防災マップをつくろう</p> <p>②グループを中心に積極的に聞いたり、教えたりして全員で地図を完成させよう</p> </div> <p>○調査結果を地図にまとめよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【教師の指示（活動の手順・評価方法）10分】</p> <p>☆目標</p> <p>☆作図時間（30分）</p> <p>☆写真や調査結果等の資料</p> <p>☆活動形態（グループ）</p> <p>☆評価方法</p> <p>①完成した地図で評価をする。</p> <p>②活動の様子で評価をする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を貼ると分かりやすくなるね。</li> <li>・視点ごとに色を分けると分かりやすくなるよ。</li> <li>・〇〇君の調査結果には僕の調査結果にないものがあるね。</li> <li>・私はこんなところに気付いたから参考にしてみてね。</li> </ul> <p>○本日の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて地図を作ることができるようになりました。</li> <li>・友達と相談をすることで、まとめ方や視点の内容を深めることができました。</li> <li>・地図にまとめたのは初めてだけど、地図上に情報を落とすと、分かりやすいということが分かりました。</li> <li>・今回、地図のまとめ方が分かったので、次は視点を落とさずに分かりやすくまとめたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒が目標をもって学習に取り組めるようにするために、活動の手順や評価方法について活動の初めに明示する。</li> <li>◆生徒が主体的に活動することができるように、グループになって作業を行い、互いの情報やまとめ方をやりとりする機会を設ける。</li> <li>◆まとめ方がわからなかったり、視点が明確になっていなかったりする生徒のために、教師が活動の様子を見て回り、グループ内のメンバーやグループ以外の友達に助言を求めるように声かけをする。</li> <li>◆生徒の主体的な学びを促すために、教師は生徒の話し合いが円滑に進んだり、停滞しているグループに他のグループを参考にするよう伝えたりする立場に徹する。</li> <li>◆写真資料を効果的に活用できるようにするために、フィールドワークで生徒が撮影した画像をあらかじめ印刷しておく。</li> <li>◆生徒が本時の授業で何を学習したのか意識できるようにするために、振り返りの時間を設ける。</li> </ul> <p>◎積極的に地図作りの方法を友達に聞いたり、教えたりすることができる。(活動の様子)</p> <p>◎「防災マップの視点」を意識して地図に情報をまとめることができる。(防災マップ)</p>	

(4) 評価

	主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能
A	自分から地図の作り方や情報のまとめ方について、グループのメンバーに教えることができたり、地図上に載せる情報をグループのメンバーに提供したりすることができる。	「防災マップの視点」を明確にしながらいフィールドワークで得た情報を地図にまとめた、わかりやすい防災マップを作るための情報を取捨選択したりしながら地図にまとめることができる。
B	自分から地図の作り方や情報のまとめ方について、グループのメンバーに聞くことができたり、地図上に載せる情報を収集したりすることができる。	「防災マップの視点」を明確にしながらいフィールドワークで得た情報を地図にまとめることができる。